

VI 水産業

1 主要水産物紹介

【ズワイガニ】

○鳥取県のズワイガニ

鳥取県では成長したズワイガニの雄を“松葉がに”、雌を“親がに”、脱皮直後の雄を“若松葉がに”と呼び、県を代表する冬の特産物となっている。

11月初旬から沖合底びき網漁業により水深 200～500m 付近で漁獲される。平成3年には漁獲量が 309t まで減少したが、資源管理に積極的に取組み、近年は 800t 前後で安定している。平成27年漁期から厳しい基準を設けたトップブランド「五輝星」が誕生し、令和元年の初競りでは1枚 500万円の競り値がつき、「競りで落札された最も高価なカニ」としてギネス世界記録に認定された。



○代表漁港

境漁港、鳥取港、網代漁港

○ズワイガニの漁獲量と全国シェア

漁獲量 (トン)		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取	全国					
722	3,512	北海道	兵庫県	鳥取県	福井県	石川県
20.6%		26.2%	22.5%	20.6%	10.7%	8.0%

(農林水産省：令和元年漁業・養殖業生産統計年報)

【カニの消費量】

単位：g

全国県庁所在地及び政令指定都市のカニ消費量を比べると、鳥取市の1人当たりの消費量は全国第1位。全国平均の約5倍と、カニ好きな県民性がうかがえる。

1位	2位	3位	4位	5位
鳥取市	松江市	福井市	青森市	新潟市
1,992	1,264	1,075	933	872

*全国平均：371g

(総務省：家計調査(二人以上の世帯)品目別都道府県庁所在地及び政令指定都市別ランキング H30～R2 平均)

【イワガキ】

○鳥取県のイワガキ

日本海の海の滋味を詰め込んだイワガキは夏の主役である。素潜りやボンベ潜水で漁獲される。大きいものは長さ 20cm、重さは約 1kg になる。

イワガキは夏の産卵期が近づくとつれ、丸々と身が太り、味が良くなり、「海のミルク」と称されている。現在、県産のイワガキを「夏輝」と称してブランド化しており、漁業者は型の良い大型(殻高 13cm 以上)のイワガキには、ブランドラベルを取り付けて出荷している。漁業者はイワガキを今後も継続して漁獲できるよう、資源管理に取り組んでいる。



○代表漁港

赤碕港、鳥取港、網代漁港、田後港、境漁港、皆生漁港

【ハタハタ】

○鳥取県のハタハタ

鳥取県で沖合底びき網漁業により漁獲されるハタハタは、全国的にも上位の漁獲量を誇る。

平成 19 年度からは、県産ハタハタのマスコットキャラクターを「はた坊」とし、県内外にPRしている。

山陰沖合に回遊してくるハタハタは、産卵群ではなく、餌を求めて回遊してくる索餌回遊群のため、漁獲シーズンを通して脂の乗りが非常に良く、うまみが強いため（全長 20 cm以上のものは平均 10%以上の脂質含有量）、平成 22 年 10 月から、全長 20 cm以上のハタハタを「とろはた」としてブランド化している。

○代表漁港

境漁港、鳥取港、網代漁港

○ハタハタの漁獲量と全国シェア：全国 2 位

漁獲量（トン）		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
鳥 取	全 国					
1,259	5,364	鳥取県	兵庫県	秋田県	石川県	青森県
23.5%		23.5%	22.5%	14.6%	10.5%	7.9%

（農林水産省：令和元年漁業・養殖業生産統計年報）



「はた坊」

【ベニズワイガニ】

○鳥取県のベニズワイガニ

ベニズワイガニはかご網漁業で漁獲され、境漁港は全国 1 位の取扱量を誇り、全国漁獲量の約 6 割が境漁港に水揚げされている。しかし、近年漁獲が減少したことから、漁業者は資源を増やすための資源回復に取り組んでいる。

ベニズワイガニの加工は境港の重要産業であり、様々な加工品が作られている。

さらに、カニの甲羅に多く含まれるキチン・キトサンは医薬品や健康食品に利用されている。

○代表漁港 境漁港

○ベニズワイガニの漁獲量と全国シェア

漁獲量（トン）		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
鳥 取	全 国					
2,153	13,210	北海道	鳥取県	新潟県	兵庫県	島根県
16.3%		16.7%	16.3%	15.0%	14.4%	12.9%

※鳥取県、島根県、新潟県ほかの船が境漁港に水揚げしている。

（農林水産省：令和元年漁業・養殖業生産統計年報）



【クロマグロ】

○鳥取県のクロマグロ

境港では、クロマグロのうち 30 kg未満を“よこわ”、それ以上を“まぐろ”と呼んでいる。

クロマグロは、日本海では、主に 6～7 月にかけて秋田沖～山陰沖で大中型まき網漁業により漁獲される。

多くのクロマグロを一度に処理できる体制（大型船入港、内臓除去、買受能力など）が整っている境港には、日本海で漁獲されたクロマグロのほとんどが水揚げされている。

境港では、クロマグロを夏場の観光資源として地域活性化に活かすため、市場の見学ツアーやまぐろ感謝祭及び飲食店での料理提供が行われている。

○代表漁港 境漁港

○クロマグロの漁獲量と全国シェア

漁獲量（トン）		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
鳥 取	全 国					
815	10,236	長崎県	青森県	宮城県	静岡県	鳥取県
8.0%		16.6%	13.9%	9.2%	8.2%	8.0%

（農林水産省：令和元年漁業・養殖業生産統計年報）



2 水産業の概要

本県の海岸線の総延長は 133km で、東部と西部に天然礁が存在するが、海岸の多くは起伏の少ない砂浜域が占めている。このため、沿岸漁業では砂浜域に生息するヒラメ等が漁獲の主体となっていたが、近年はサワラ、ブリ類といった回遊魚の漁獲が増加している。

また、沖合は対馬暖流と山陰若狭冷水で形成される海域であり、表層では回遊性のクロマグロ、アジ等の浮魚類、底層ではズワイガニ、アカガレイといった底魚類が漁獲される。

本県には、現在 5 つの沿海漁業協同組合がある。平成 8 年 7 月に鳥取県信用漁業協同組合を中心とした沿海漁協の信用事業を統合し、また、14 あった沿海漁協のうち平成 10 年 4 月には東部 5 漁協が合併し鳥取中央漁協となったのを皮切りに、平成 15 年 7 月に県下の 9 漁協が合併し、鳥取県漁協となり（10 月に 1 漁協合併）、16 年 2 月には鳥取県漁業協同組合連合会を包括承継した全県を組合地区とする漁協が誕生した。なお、5 つの沿海漁業協同組合以外に業種別漁業協同組合が 3 組合、内水面漁業協同組合が 5 組合ある。

本県漁業を取り巻く情勢は、新日韓漁業協定に基づく暫定水域の設定等により大きな影響を受けているとともに、漁場環境の悪化、水産資源の減少、後継者不足及び漁業就業者の高齢化、漁船の燃油価格の乱高下、消費者の魚離れ等の問題に直面しており、厳しい状況にある。

本県漁業は、漁船漁業が主体となっており、刺網漁業、小型底びき網漁業、釣漁業を主体とした沿岸漁業と大中型まき網漁業、沖合底びき網漁業等を主体とした沖合漁業に分けられる。また、本県西部の美保湾でのギンザケ養殖をはじめ、港湾を利用したワカメ、イワガキ養殖、ヒラメ、ギンザケ、マサバ等の陸上養殖、内水面のサケ・マス類の養殖など多様な養殖業が行われている。

このような状況にあって、おいしい鳥取の水産資源を安定的に供給する仕組みをつくるため、漁業経営の安定・所得向上と漁業経営体の減少に歯止めをかけることをミッションとして、水産業の体制強化と活気に満ちた漁村の実現に取り組んでいる。

主な漁業種類の経営体数の推移

単位：経営体

漁業種類	昭和50年	60	平成2年	12	17	20	25	30
小型底びき網漁業	165	152	145	103	72	50	32	19
刺網漁業	413	404	368	197	166	164	111	105
いか釣漁業	540	703	571	528	593	113	104	79
船びき網漁業	9	103	25	10	3	6	2	2
沖合底びき網漁業	56	55	50	37	30	28	26	23
まき網漁業	9	7	4	3	4	8	6	4
近海いかつり漁業	109	39	21	11	5	6	3	-
べにずわいがに漁業	15	16	13	8	7	5	3	-

資料：鳥取農林水産統計年報

注1：沿岸いか釣漁業、近海いか釣漁業、べにずわいがに漁業は漁労体数（単位：統）を示す。水産課調べ。

2：H20 いか釣漁業は経営体数を示す。

3：H20 沿岸いか釣漁業には「近海いか釣漁業」を含む。

4：H20、H25、H30 大型まき網漁業には「大中型まき網」及び「中小型まき網」を含む。

経営階層別経営体数の推移

単位：経営体

区分	年次	昭和50年	60	平成2年	12	17	20	25	30
総経営体数		1,334	1,453	1,247	954	887	818	669	584
漁船非使用		98	714	53	39	27	45	44	40
無動力船		25	6	3	1	1	1	-	-
動力船	船外機付漁船	-	-	-	-	-	258	228	210
	0～1t	421	421	397	275	284	8	2	5
	1～3	318	244	204	150	142	131	97	71
	3～5	247	371	344	299	273	259	204	169
	5～10	44	177	112	80	75	50	39	38
	10～20	6	19	23	30	23	17	11	10
	20～50	18	8	8	9	6	3	2	2
	50～100	75	69	49	39	31	30	23	18
	100～500	9	17	15	11	9	6	8	12
	500t以上	8	4	4	3	2	2	3	-
小計		1,146	1,330	1,156	896	845	764	617	535
定置		7	5	6	3	2	2	3	5
海面養殖		2	4	10	9	7	6	5	4

資料：2018年漁業センサス。

注：H30の動力船「100～500」の経営多数は「500t以上」を含む

海面漁業生産量及び生産額の推移（属人）

区分	年次	昭和50年	60	平成12年	17	22	25	27	29	30	令和元
生産量（千トン）		156.4	328.6	77.8	59.8	66.0	56.4	73.6	74.2	83.1	82.1
生産額（百万円）		15,276	22,786	16,808	15,724	15,822	14,637	19,182	19,228	20,503	20,138

資料：鳥取農林水産統計年報

日本海側最大の漁業基地の境港

境港は、隠岐島周辺の好漁場に近く、また島根半島による天然の防波堤に恵まれ、古くから漁業の町として栄えてきた。まき網漁業、かにかご漁業、沖合底びき網漁業、いか釣漁業が盛んで、平成4年から8年までは水揚げ量日本一を誇っていた。

主な魚種は、あじ、さば、いわし類、ぶり類、べにずわいがに、ずわいがに、くろまぐろ等である。

令和2年は、いわし類の水揚げが増加したことが影響し、水揚げ量は、令和元年の8万5千トンを上回る9万8千トンになった。

なお、令和元年の水揚げされた主要魚種の用途別出荷割合は、生鮮食用約3%、加工向け59%、養殖用又は漁業用飼料向けに38%となっている。

全国漁港の水揚げ量（R2）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁 港	銚子	釧路	焼津	石巻	境港	長崎	枕崎	気仙沼	松浦	八戸
水揚げ量(千トン)	272	192	154	101	98	93	80	71	61.4	61.1

まいわし	あじ	ぶり類	さば	べにずわい	かたくちいわし	うるめいわし	その他
40.7	12.5	11.7	9.9	4.7	3.5	2.7	12.3

資料：（一社）漁業情報サービスセンター

注：輸入、陸送を含む

境港の水揚げ量及び水揚金額の推移（属地）

区分	年次	昭和63年	平成5年	8	10	15	20	25	27	29	30	令和元年	2
水揚げ量(千トン)		628	691	259	201	122	107	136	126	128	115	86	98
水揚金額(億円)		302	304	253	210	185	208	178	206	206	218	212	182

資料：境港水揚状況

主な漁業種類別の概要（属人）

主な漁業種類	主な 港	主な漁獲対象種	漁獲量(トン)					
			H26	H27	H28	H29	H30	R1
沿岸漁業	境、御来屋、泊、赤碕、酒津、淀江、鳥取、夏泊等	ハマチ、スルメイカ、サワラ、ケンサキイカ等	5,439	5,721	4,741	4,448	4,182	3,114
沖合底びき網漁業	境、鳥取、網代、田後	ハタハタ、ズワイガニ、アカガレイ等	6,275	6,819	6,610	6,371	5,885	6,067
大中型まき網漁業	境	アジ、サバ、クロマグロ	x	x	x	x	x	x
べにずわいがに漁業	境	ベニズワイガニ	-	-	-	x	x	x
近海いか釣漁業	境	スルメイカ	x	x	x	x	x	x

資料：鳥取農林水産統計年報、農林水産省：漁業・養殖業生産統計年報

注1：沿岸漁業の漁獲量は、定置網を除く。

2：表中の「-」は事実のないもの、「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

海面漁業生産の推移（属人）

区分		単位	大中型 まき網	沖 合 底曳網	近海いか釣	べにずわい がに漁	沿岸漁業	その他 の漁業	計
昭和50年	生産量	トン	121,899	10,859	8,135	6,164	6,120	2,998	156,175
	構成比	%	78.1	7.0	5.2	3.9	3.9	1.9	100
	生産額	百万円	5,548	3,695	2,607	734	1,932	644	15,160
	構成比	%	36.6	24.4	17.2	4.8	12.8	4.2	100
平成2年	生産量	トン	318,322	5,485	1,499	7,795	8,226	1,998	343,355
	構成比	%	92.7	1.6	0.4	2.3	2.4	0.6	100
	生産額	百万円	9,364	5,584	619	2,003	4,082	591	22,243
	構成比	%	42.1	25.1	2.8	9.0	18.4	2.6	100
12年	生産量	トン	43,002	5,540	1,248	6,039	11,628	10,348	77,805
	構成比	%	55.3	7.1	1.6	7.8	14.9	13.3	100
	生産額	百万円	4,573	4,491	216	1,437	4,943	1,044	16,704
	構成比	%	27.3	26.8	1.2	8.5	30.0	6.2	100
17年	生産量	トン	38,518	6,645	1,508	5,374	7,472	196	59,791
	構成比	%	64.4	11.1	2.5	9.0	12.5	0.3	100
	生産額	百万円	5,537	4,568	505	1,311	3,361	390	15,724
	構成比	%	35.2	29.1	3.2	8.3	21.4	2.5	100
22年	生産量	トン	x	6,123	x	-	7,272	2,792	65,957
	構成比	%	x	9.3	x	-	11.0	4.2	100
	生産額	百万円	-	-	-	-	-	-	-
	構成比	%	-	-	-	-	-	-	-
25年	生産量	トン	x	6,082	x	-	5,987	3,880	56,426
	構成比	%	x	10.8	x	-	10.6	6.9	100
	生産額	百万円	-	-	-	-	-	-	-
	構成比	%	-	-	-	-	-	-	-
27年	生産量	トン	x	6,819	x	-	5,721	4,085	73,600
	構成比	%	x	9.3	x	-	7.8	5.6	100
	生産額	百万円	-	-	-	-	-	-	-
	構成比	%	-	-	-	-	-	-	-
29年	生産量	トン	x	6,371	x	x	4,448	3,467	74,191
	構成比	%	x	8.6	x	x	6.0	4.7	100
	生産額	百万円	-	-	-	-	-	-	-
	構成比	%	-	-	-	-	-	-	-
30年	生産量	トン	x	5,885	x	x	4,182	2,803	83,104
	構成比	%	x	7.1	x	x	5.0	3.4	100
	生産額	百万円	-	-	-	-	-	-	-
	構成比	%	-	-	-	-	-	-	-
令和元年	生産量	トン	x	6,067	x	x	3,114	2,738	82,104
	構成比	%	x	7.4	x	x	3.8	3.3	100
	生産額	百万円	-	-	-	-	-	-	-
	構成比	%	-	-	-	-	-	-	-

資料：鳥取農林水産統計年報、農林水産省：漁業・養殖業生産統計年報

注1：海面養殖は除く

2：H22年以降、漁業種類別生産額はデータなし

3：沿岸漁業の生産量は定置網を除く

4：表中の「-」は事実のないもの、「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

3 漁業生産

(1) 沿岸漁業

沿岸漁業は本県沖合のおよそ水深 100m 以浅の海域において、釣漁業、刺網漁業、小型底びき網漁業等を主幹漁業とし、その他各種漁業を組み合わせることで極めて濃密に漁場を利用しつつ操業している。

小型底びき網漁業生産状況

単位：漁獲量＝t、比率＝%

年次	漁労 体数	出漁 日数	漁獲量							1日労体当たり	
			計	ひらめ	かれい類	たい類	えび類	貝類	その他	出漁日数	漁獲量
昭和 50 年	269 統	14,581 日	1,326	132	477	32	72	189	424	54 日	4,929kg
平成 2 年	179	13,076	726	91	228	58	48	50	251	73	4,056
12 年	134	7,751	501	18	177	18	23	15	250	58	3,739
17 年	108	5,811	358	24	117	19	8	14	176	54	3,315
22 年	-	-	493	41	113	79	3	8	249	-	-
25 年	-	-	377	29	51	58	3	28	208	-	-
29 年	-	-	193	15	28	32	1	18	99	-	-
30 年	-	-	201	18	45	54	1	5	78	-	-
令和元年	-	-	158	14	22	57	1	5	59	-	-
対 30 年比	-	-	79	78	49	106	100	100	76	-	-
構成比	-	-	100	8.8	13.9	36.0	0.6	3.2	37.3	-	-

資料：鳥取農林水産統計年報、農林水産省：漁業・養殖業生産統計年報
注：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある。

刺網漁業生産状況

単位：漁獲量＝t、比率＝%

	漁労 体数	出漁 日数	漁獲量							1日労体当たり	
			計	ぶり類	あじ類	さわら類	たい類	とびうお類	その他	出漁日数	漁獲量
昭和 50 年	748 統	38,310 日	1,724	535	25	1	47	182	934	51 日	2,305kg
平成 2 年	582	28,237	1,025	263	15	39	84	28	596	49	1,761
12 年	450	20,544	1,423	617	259	15	269	17	246	46	3,162
17 年	426	15,653	839	312	96	121	136	14	160	37	1,969
22 年	-	-	1,306	514	372	68	161	-	191	-	-
25 年	-	-	970	329	175	128	169	-	169	-	-
29 年	-	-	993	558	50	167	121	-	97	-	-
30 年	-	-	1,521	593	47	671	68	-	142	-	-
令和元年	-	-	1,359	485	36	605	94	-	139	-	-
対 30 年比	-	-	89	82	77	90	138	-	98	-	-
構成比	-	-	100	35.7	2.6	44.5	6.9	-	10.2	-	-

資料：鳥取農林水産統計年報、農林水産省：漁業・養殖業生産統計年報
注：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある。

(2) 沖合底びき網漁業

70～120t 階層漁船を主体に田後港、網代漁港、鳥取港、境漁港を基地として、山口・島根から本県沖合海域で操業し、ズワイガニ、ハタハタ、カレイ類、クロザコエビ等を漁獲している。

(3) 大中型まき網漁業

130t 階層漁船を主体に境港を基地として、日本海、東シナ海、北部太平洋等に出漁し、アジ、サバ、イワシ、ブリ、クロマグロ等を主な漁獲対象として操業している。

(4) ベにずわいがに漁業

130t 階層漁船を主体に境港を基地として、大和堆海域、新隠岐堆等の日本海に出漁して操業しているが、深海漁場の開発等の成果を背景に、昭和 44 年に初めて境港に水揚げされ、その後年々増加して昭和 59 年に過去最高の漁獲量 1 万 5,084t (鳥取県船) となった。近年は、排他的経済水域及び日韓暫定水域の設定、ベにずわいがに資源の低迷、減船等の経緯もあり、資源回復計画の実施にあたり個別割当制がとられ、漁獲量は平成 27 年は 3,977t、28 年は 3,809t で推移している。

(5) 内水面漁業

内水面における漁業は、3 河川 (千代川、天神川、日野川)、2 湖沼 (湖山池、東郷池) で行われており、河川では、アユ、イワナ、ヤマメ等を、湖沼ではシジミ、ウナギ等を漁獲しており、湖沼での漁獲量の 9 割以上はシジミが占めている。漁業協同組合はアユ、ヤマメ、イワナ、ウナギ等有用魚類の放流事業や、天然そ上のアユを増やすため産卵場造成等を漁業権管理の一つとして実施して、水産資源の増殖と漁業生産の増大を図っている。また、内水面は県民へのレクリエーションの場の提供という重要な役割も持っている。

内水面漁業一覧表

区分	名称	流程面積	漁業権魚種	漁業権
河川	千代川	223 k m ²	あゆ、いわな、やまめ、にじます、こい、あまご	第 5 種共同漁業権
	天神川	83 k m ²		
	日野川	153 k m ²	、うなぎ	
湖沼	湖山池	6,930 千 m ²	しじみ、わかさぎ、ふな、こい、うなぎ、しらうお、えび	第 1 種・第 5 種共同漁業権
	東郷池	4,100 千 m ²	しじみ、ごかい、ふな、こい、うなぎ、しらうお、わかさぎ、えび、ぼら、すずき	第 1 種・第 5 種共同漁業権

資料：水産課調べ (令和 3 年 5 月 26 日現在)

内水面漁獲量の推移

単位：t

年次	区分	河 川 (千代川、天神川、日野川)	湖 沼 (湖山池、東郷池)	合 計
平成 7 年		552	296	848
12 年		452	427	879
17 年		74	-	-
22 年		-	199	-
25 年		-	44	-
27 年		-	127	-
29 年		-	147	-
30 年		-	190	-
令和元年		-	200	-
令和 2 年		-	289	-

資料：鳥取農林水産統計年報 (～H17)

注：平成 17 年は千代川、日野川のみしか調査対象となっておらず、湖沼については調査が行われていない。

資料：水産課調べ (H22～)

(6) 養殖業

海面における養殖業は美保湾（ギンザケ、トラフグ）および県内各地の港内（ワカメ、イワガキ）で行われており、特にギンザケは近年急速に生産量が増加している。また内水面ではマス類養殖の他ギンザケの種苗の生産が盛んに行われている。その他、地下海水を利用したヒラメ、サバ養殖やろ過装置を備えた循環式のギンザケ、ニジマス、マサバ養殖など新しい取組がはじまっている。

単位：t

年次	区分	海面	内水面	合計
平成 23 年		176	64	240
24 年		528	64	592
25 年		528	48	576
26 年		790	39	829
27 年		908	73	981
28 年		746	102	848
29 年		1,702	128	1,830
30 年		1,670	118	1,788
令和元年		1,335	200	1,535

資料：（農林水産省：漁業・養殖業生産統計年報）

4 漁業経営

(1) 主とする漁業種類別経営体数

区分	計	沖合底 びき網	小型底 びき網	船び き網	まき 網	刺網	はえ 縄	いか 釣	その他 の釣	定置 網	その他 の網	採貝	採藻	その他 の漁業	海面 養殖
平 11	966	38	113	12	10	197	6	186	173	3	7	147	6	57	11
13	937	37	90	7	8	190	7	179	175	3	6	166	5	56	8
15	946	30	82	4	3	187	3	187	205	3	9	142	17	68	6
17	887	30	72	3	4	166	2	182	186	2	5	151	8	50	7
20	818	28	50	6	8	164	3	113	212	2	-		164	62	6
25	669	26	32	2	6	111	4	105	160	3	2		170	43	5
30	586	23	19	2	4	105	3	79	143	5	8		166	25	4
対 11 年比 (%)	60	60	16	16	40	53	50	42	82	166	114		108	43	36
構成比 (%)	100	3.9	3.2	0.3	0.7	17.9	0.5	13.5	24.4	0.9	1.4		28.3	4.3	0.7

資料：鳥取農林水産統計年報、漁業センサス

注1：まき網の内訳は、大中型まき網と中・小型まき網。

2：端数処理の関係で内訳と合計は一致しないことがある。

3：H20 採貝・採藻は合計で集計。

(2) 漁業世帯数及び漁業就業者数

区分	計	自営 漁業 世帯	漁業 従事者 世帯	漁業就業者						
				計	男子					女子
					小計	15~24歳	25~39	40~59	60歳以上	
平 10	1,641	951	690	1,849	1,759	53	221	822	663	90
11	1,540	890	650	1,740	1,650	30	210	730	670	90
13	1,500	870	630	1,640	1,550	20	130	740	670	90
15	1,392	878	514	1,540	1,489	37	146	653	653	51
20	-	-	-	1,568	1,515	63	206	615	631	53
25	-	-	-	1,320	1,286	70	194	473	549	34
30	-	-	-	1,125	1,103	74	184	367	478	22
対 10 年比 (%)	-	-	-	60	62	139	83	44	72	24
構成比 (%)	-	-	-	100	98	7	16	33	42	2
男子構成比 (%)	-	-	-	-	100	6	16	33	43	-

資料：鳥取農林水産統計年報、漁業センサス

注1：平成16年から鳥取県分は掲載されなくなった。

2：端数処理の関係で内訳と合計は一致しないことがある。

3：H20 年以降は世帯数調査なし。

5 栽培漁業の現況

本県では、昭和 56 年度に栽培漁業センターを開設してからヒラメ、キジハタ、アワビ、サザエ、バイ等の人工種苗の生産・放流や、養殖向けヒラメ、マサバ種苗を供給し、地域水産資源の増殖や安定生産による沿岸漁業および養殖業の振興を図っている。

令和2年度種苗生産及び種苗放流数

単位：千尾 (mm)

魚種	アワビ	サザエ	ヒラメ	キジハタ	養殖ヒラメ	養殖キジハタ	養殖マサバ
種苗生産数	175 (30)	339 (9)	60 (80)	53 (50)	15 (80)	3 (70)	356 (60)

資料：公財 鳥取県栽培漁業協会資料 (令和2年度)

注1：括弧内は大きさを示す。

2：養殖アワビ、養殖ヒラメの数値は、配布尾 (個) 数。

6 漁港・港湾

本県には漁業生産の基盤として、漁港が 18 港、港湾が 6 港ある。

港の区分状況

区分	港数	名称
漁港	第1種漁港	東漁港、岩戸漁港、酒津漁港、船磯漁港、夏泊漁港、青谷漁港、長和瀬漁港、羽合漁港、御崎漁港、御来屋漁港、平田漁港、皆生漁港、崎津漁港、渡漁港
	第2種漁港	泊漁港、淀江漁港
	第3種漁港	網代漁港
	特定第3種漁港	境漁港
港湾	地方港湾	田後港、赤碕港、逢坂港、米子港
	重要港湾	鳥取港、境港

注：第1種漁港：利用範囲が地元の漁業を主とするもの

第2種漁港：利用範囲が第1種漁港より広く第3種漁港に属さないもの

第3種漁港：利用範囲が全国的なもの

特定第3種漁港：第3種漁港のうち、水産業の振興上特に重要なもの

地方港湾：重要港以外の港湾で、おおむね地方の利害にかかるとのもの

重要港湾：国の利害に重大な関係を有する港湾で政令で定めるもの

港位置図

